

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570512632		
法人名	社会福祉法人 久盛会		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	秋田県由利本荘市岩城富田字根本10番地22		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生活史をよく理解して寄り添いケアし、和やかに過ごせる様にケアしている。 食事のメニュー等、画一的ではなく、季節の物を取りいれたり、一人一人の嗜好を理解し、献立作成している。 日常生活に体操の時間を組み込み、筋力低下なく元気で過ごせる様に支援している。 家事活動、趣味活動等、本人が楽しみ自身を持って行なえる様に支援し、また、ケアプランにより評価している。 地域行事などの参加、故郷訪問等の外出機会を作っている。 車椅子を使用している人が一人もいない。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	k.php?action_kouhyo_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0570
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所内は清掃が行き届いており、装飾等の環境整備も季節感を大切にするとともに、家庭的な雰囲気もだいじにしています。畳のスペースと椅子・テーブルスペースとがあり、利用者の好みやADL状態に応じて過ごす場所を選択できるようになっています。キッチンは対面式で利用者の状況を見ながら食事の準備ができる他、利用者も使いやすい高さに設計されています。事業所の隣には「かやぶき荘」というかやぶき屋根の多目的施設があり、ここで地域の方との交流を図ったりするとともに、昔ながらの日本家屋がある事で見た目にも楽しめるようになっています。母体が医療法人である事から、事業所として受け入れが難しいケースであっても、法人内の事業所へ移る事で生活の支援を法人として継続できるという点は利用者・家族にとっても安心感があります。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1番地5号		
訪問調査日	平成26年12月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と 管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	田園独自の理念を事務所とトイレに掲げている。毎月のユニット会議を立ち返りの場所としている。	開設に当たって、職員全員で考えた理念である。毎月の会議や学習会でも理念の振り返りを行いつつ、実践につなげられるように努めています。理念を意識するよう事務所や職員トイレ等へ掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	茶話会を開催したり、地域の方との食事会、防災訓練などにより交流している。地域の商店等も利用している。床屋、フラワーボランティアなどの参加もある。	毎月フラワーボランティアが来所され、一緒に創作活動を行ったり、作品を文化祭に出展する等している。今年度は稲刈りの後に地域の方々と食事会を開催する等して交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした 地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 伝え、地域貢献している	運営推進会議や、二次予防事業の際に地域の人達に伝え貢献している。広報を地域に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子をプロジェクター等を活用して報告している。実際に取り組んでいる作業や活動に対して意見を頂き議事録にまとめ職員全員が網羅している。参加する人全員から意見をもらえるようにすすめ方を工夫している。	2か月に1回行われており、利用者や家族、町内会長や福祉課の職員、消防職員等が運営推進委員として任命され、同じメンバーで行われる事で継続的な話し合いがされ、意見を基に改善に向けた検討が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席頂き意見、アドバイスを頂いている。消防等については、避難に対する指導や方法のアドバイスを適宜頂いている。法人全体で広域、市町村と連携が取れている。	法人内にあるあまさぎ園の相談室が法人の主たる相談窓口となっており、必要な事は相談室を通じておこなわれている。事業所としても広報誌を市町村へ配布し、事業所の取り組みについて理解が得られるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束していないが、転倒等、やむを得ない方に対してセンサーマットを使用している。その他の抑制するような介助はない。	法人の勉強会である「かや学」にて定期的に勉強し、理解を深めている他、事務所内には身体拘束廃止のマニュアルもある。リスクの高い方であっても拘束をしないように代替方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会に参加している。ユニット会議で立ち回り声をかけあえる環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用に関しては、現在例ないが、あまさぎ園相談室を連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明、運営規定、契約書類、個人情報に関わる同意書により丁寧に確認し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に気軽に何でも相談に乗れる様にコミュニケーションを図っている。その他にも運営推進会議により家族代表者による意見を大切にして議事録については、職員全体で網羅している。	定期的に状況報告をする等して家族が相談しやすい関係作りに努めている。また、面会時にはちいさな事でも相談していただきその反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて、職員間の意見を聞きそれを法人内での会議において取り上げ意見を反映している。	職員が相談しやすい関係作りに努め、内容によっては事業所の会議にて一緒に検討したり、事業所で解決できないような件については、法人の会議に挙げて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績に応じた昇給がある。仕事に対しての自己評価を提出し管理者との面談もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会に参加しており各種研修への参加がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会開催の勉強会に参加し情報交換、意見交換がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを活用しこれまでの生活歴を確認しました、安心して過ごせる様に不安な気持ちに寄り添える様な支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や環境、状況に配慮しご家族の負担を考慮した関わり方や対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、得意とすることを理解して共に生活している。決め付けず認知症のある方として職員全体で理解して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に文章で状況を報告したり、面会、電話などを活用し共に支えていく支援がされている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問をする機会がある。また、馴染みの方との手紙をやり取りする方もいる。	外出行事の際に利用者の故郷の近くを通る等してこれまでの生活から離れないように努めている。また、故郷を訪問するといった機会を個別に行ったり、そうした際には家族とも会えるように調整を図っている。また馴染の友人の面会も見られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で作業する際には、共に出来るお皿拭きやその他季節の物の処理等、共に楽しめる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のご本人の様子の把握に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランにより本人の希望、何をしたいか、何を生きがいとしているか等意向を確認した上で介護計画をしている。カンファレンスには、本人も参加してもらっている。	カンファレンスへ本人や家族に参加いただき、定期的に意向を確認している。日々の関わりの中でも本人の気持ちに寄り添うように努め、本人の意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査によるフェースシートを活用したり、日常生活の関わりの中からの会話により経過の把握に努め、職員全体で声を出し把握に努めている。介護計画更新毎、ケアチェックで網羅している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での申し送りにより全体で網羅している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの希望や本人の現状に応じプランの見直しをした。本人ご家族を交えてのカンファレンスを実施できた。	カンファレンスは6か月に1回のペースで行っている。前回の外部評価を受けて、本人や家族にもカンファレンスへ参加いただくようになった。	多職種連携という点で、カンファレンスの際に主治医等への参加を促したり、参加が難しいようであれば意見を伺う等の取り組みを今後期待したい
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア担当者が、支援経過をまとめ、それについてケアカンファレンスを実施している。それに基づき、介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の係りつけ医を利用して健康管理している。その他、図書館や路線、地域の商店等活用して楽しみ過ごせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に説明し、受診の際には、状態を報告し家族共に安心感を持てる様に支援している。緊急時における受診先も確認している。	基本的には協力医療機関への受診を促してありますが、これまでのかかりつけ医への受診もでき、その際は家族対応で行ってもらっています。医療機関とも連携を図っており、必要に応じて往診の受け入れも行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェックの他にも、毎日の朝礼時に利用者の状況を確認しあい、受診や看護の指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご本人の様子の把握に努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に応じて、家族との面談の中から今後の意向確認している。	重度化した場合における対応に関わる指針や看取りに関する指針が整備されており、本人や家族との確認の上で、可能な限りの看取りが出来る対応となっている。	重度化した場合における対応に関する指針や看取りに関する指針について、職員が十分に把握されていない為、事業所として指針等を十分に理解した上で看取りケアを対応できるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり適宜確認している。救急時の対応についての訓練にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の自主防災訓練のほかに、年2回の避難訓練を行なっている。避難訓練については、消防や地域の委員の意見を反映して、次回の訓練に活かしている。	毎月自主防災訓練を行うほか、年2回の総合防災訓練を実施する等、災害への高い意識が伺えます。法人内での協力も得られ非常時の備蓄も備えています。地域災害支援ボランティア体制があり、訓練への参加や有事の際の協力体制も出ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳をもち声掛けに注意した関わりをしている。家庭的な雰囲気も大切にしているので、時と場所を選び楽しみ過ぎる様な声掛けをしている。	法人内にある接遇委員会等を活用し、利用者に対する声かけ等を見直す等して、利用者の人格を尊重した対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを一番に考え否定せず自己決定をゆだねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決め付けず、日常の生活をご本人に出来る限りをお任せしている。職員の声掛けにより作業等行うが、ご本人の楽しめる事やできる事、出来そうな事を支援し、決定は個人にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	日頃より、オシャレをする気持ちを持ってもらう様に、洋服を選んでもらったり、化粧を支援したりしている。外出時等は、特別にオシャレできる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者全体の嗜好を職員理解して、献立作りについても、入居者の意見を日常の会話の中から取りいれている。準備や片付けなど、日常的に一緒に行なっている。	料理本を本棚において利用者が自分の意向を伝えやすいように工夫しています。調理や配膳、後片付け等に利用者が参加し食事を楽しむとともに、残存機能の活用を促しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう 状況を把握し 、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量や水分量をよく理解した上で水分、食事の提供をしている。咀嚼や嚥下の能力も十分に理解して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けのほか、義歯管理の難しい方に限っては、お預かりして消毒支援しケア介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄パターン、状況を温度版や職員同士で声を掛け合いながら支援している。排泄間隔などを把握し、出来る限り、綿パンツで過ごすことが出来るように日中は、綿パンツ、夜間はリハビリパンツ等職員間で相談しながら自立支援している。	トイレでの排泄を重要視し、本人の排泄パターンを把握し声かけ等によって、適切な対応を行っています。利用者個人の状況については会議等でも都度検討し、より良い支援の方法を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動を支援しているほか、食事では、繊維質を多く取りいれたり水分量を考え提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に添い、無理せず入りたい時間帯、入れる時間帯をよく理解して支援し、入浴を楽しんでもらっている。	入浴日は決めずに入浴したい時に、入浴する事が出来ます。入浴が好まない方については、声かけを工夫する等して清潔を保てるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の入居者状況を確認している。日中の活動量を多くするなどして安眠できる様支援している。冬季等は特に温度管理、湿度管理に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法をよく理解した上で服薬支援している。排泄の状態や夜間の状態など、体調面に变化あるときには、かかりつけ医と相談の上調節などに対する意見交換をして実施されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事、楽しみ過ごせる事など日常的に取り入れ生活支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している <small>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</small>	ふるさと訪問したり、郵便出し、車に乗っての買い物等、外出機会がある。	2/月程度の計画的な外出はもちろんのこと、天候や職員体制等を考慮して、可能な限り本人の意向に応じて外出を行っています。外出時には化粧をする等して外出を楽しめるような工夫を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こずかい程度のお金を自己管理している。買い物がしたい時など必要なものがあるときは、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話をとりついたり、手紙のやりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたレイアウトをしたり、危険対策、湿度、温度管理等、多方面で配慮し環境整備している。	天窓からの採光があり施設内は明るく過ごしやすくなっています。植物やボランティアの方々と作る小物を飾る一方で、子どもっぽくならないように工夫をしています。トイレは車椅子でも支障のない広さがとられていて、清潔感があります。対面キッチンその他、畳コーナーもあり家庭的な雰囲気が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共有スペースでゆっくりくつろぐ事が出来る。席等も適宜検討し配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や配置工夫し居心地よく過ごせる様配慮している。	居室には、ベットとダンスを置いており、それ以外については自宅で使っていた物を自由に持ち込めるようにして、本人が居心地良く過ごせるよう配慮されています。また、本人の過ごしやすいうように不必要に物を置かないようにして、安全面等にも配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を職員全員が把握し少しのアドバイスにより自立し過ごせる様に支援している。		